

『中心市街地に関するアンケート調査』考察

今回、回答のあった調査内訳（年齢・性別・住まい）は別紙のとおりとなっている。その中で、回答者の大半（73.1%）が、「ほぼ毎日」中心市街地エリア内に、仕事や通学のため、市役所・銀行・病院といった公共施設、あるいは、買物、食事、理美容など多種多様な要件で訪れており、日常生活の一つとなっている状況であり、やはり地域の拠点性が示された結果となっている。

また、買物先については、市内のスーパー等の大型店が回答率 87.4%と最も高く、次に市内のその他の店 49.1%となっており、市内の商店街は 30.6%と京阪神地方の 26.9%と同程度となっている。近隣の京都府北部や兵庫県北中部の各都市についても、多くの方（32.7%）が出かけている状況が判明した。

そこで、まず初めに、『現在の福知山市の中心市街地の状況』についての満足度について考察すると、「不満足」と感じている項目は、その度合いの高いものから「広域からの来街者でにぎわう場所づくり（-0.451）」、「地域資源（観光資源・文化資源等）を活用した観光ルートや楽しい場所づくり（-0.362）」、「京阪神と北近畿・山陰地方を結ぶ交通中継地の利点を活かした立ち寄りやすい環境づくり（-0.311）」、そして「時代に適応した都市型商業施設の誘致（-0.307）」となっている。このことは、疲弊の度合いが進む中心市街地商店街をはじめ、住民ニーズに沿ったショッピングセンターや食事、スポーツ等の娯楽・遊戯施設等が整っていない実態を反映したものであり、また、本市のシンボルである「福知山城」や「旧市街地域」に存在する地域資源が、有効に活用されていないと判断されたものと思われる。

また、いずれの調査項目ともプラスの満足度とはならなかったが、「多彩なイベントによるにぎわいづくり（-0.132）」については、「不満・どちらかという不満」が 29.5%と全体の中で最も低くなっており、ほぼ7割の方については是認の方向と判断でき、年間を通じて実施しているこれまでの取組みが一定評価されたものと考えられる。また、「日常生活に必要な店やサービスが、歩いていける範囲にある生活や居住の推進（-0.140）」の項目についても、中心市街地在住者 294名中、満足 107名、どちらでもない 82名、不満足 105名とほぼ均等であり、全体としても満足 29.5%、どちらでもない 33.7%、不満足 36.8%とほぼ均等な結果となっている。このことは、中心市街地エリア以外の郊外や周辺部において、大規模店や一定規模のスーパー、商店が存在している現状を示すものと考えられる。

当調査項目に係るいずれの設問についても、「どちらでもない」とするものが最大比率（33.7%～49.2%）となっている。これらの設問については、現在まで実施してきた各種の事業に対しての市民評価と判断できるが、この中には、「無関心」とか「わからない（不明）」といった素因も包括されたものと類推される。しかしながら、「不満」因子側への明確な意思表示がないわけであり、行政施策の展開として「標準的」との肯定的な見方とも判断できる。

次に、『中心市街地に住みたくなる、あるいは、訪れたいようになるため』の重要度合いについては、いずれの調査項目も 1.0 ポイントを上回る高ポイントを示す結果となったが、その中

でも最も重要と判断された項目は、全体の94.0%の方が重要と判断された「子育てしやすい、あるいは、高齢者にとって住みよい環境づくり（1.624）」であり、次いで、「日常生活に必要な店やサービスが、歩いていける範囲にある生活や居住の推進（1.410）」が重要と判断されている。さらには、「質が高い行政サービスの充実（1.279）」、「京阪神と北近畿・山陰地方を結ぶ交通中継地の利点を活かした立ち寄りやすい環境づくり（1.245）」、「人々のふれあいと交流活動の場所づくり（1.242）」、「地域資源（観光資源・文化資源等）を活用した観光ルートや楽しい場所づくり（1.200）」、「広域からの来街者でにぎわう場所づくり（1.195）」と続いている。

その一方、今回の調査項目の中で比較的順位の低かった項目は、「多彩なイベントによるにぎわいづくり（1.015）」、「時代に適応した都市型商業施設の誘致（1.051）」となっている。「多彩なイベント」については、満足度では最も高ポイントとなっており、これまでどおりの実施が望まれていると思われる。また、「都市型商業施設の誘致」については、その重要性はあるものの、他の項目が比較的普通の生活に密着したもの、あるいは、自ら影響を受取るもの、まち全体をとらえたものであり、ワンポイント的な施設と評価されたものと考えられる。

今回の調査内容全般を通して判断すると、当エリアは、本市の中心市街地としての拠点性は一定確保しているものの、普段あるいは休日といった日には、京阪神を含めて広い範囲の都市へ買物に出かけている実態があった。このため、「いかに中心市街地を活性化するか！何が課題か！」といったニーズ調査としては、「広域からの来街者でにぎわう場所づくり」～【課題1】とか、「地域資源（観光資源・文化資源等）を活用した観光ルートや楽しい場所づくり」～【課題2】が大きな課題として捉えられている。また、「子育て支援や高齢者対策」や「行政サービスの充実」、さらには、「人々のふれあい交流」といった住民生活に直結する暮らしの充実・地域コミュニティの確保といったことも重要事項として求められている。～【課題3】

これらの課題を克服するため、『21世紀にはばたく 北近畿の都 福知山』～賑わい創出による 元気アップまちなかづくり～をメインテーマに定め、

課題1： 北近畿における中核都市“北近畿の都”の形成
「魅力あふれる新しい福知山の顔づくり」

課題2： 歴史文化資産を活かした交通の要衝地としての魅力アップ
「立ち寄りたくなるおもしろ空間づくり」

課題3： まちなか居住と地域コミュニティの再生
「元気なまちなか生活を応援する笑顔のまちづくり」

の3つについて、それぞれの施策を積極的に実施するとともに、密接な連携・協調を保ち、本市の将来像である『人・もの・情報』が行き交う“北近畿の都 福知山”の実現を目指すものである。

■ 自由意見としては、次の事柄についての意見が多くあった。

- 子どもや高齢者に優しい住みよい街づくり（17件）
- 市内循環バス・周辺部からの交通アクセス強化（9件）
- まちなか居住、定住促進施策の推進（8件）
- 市街地で気楽に止められる駐車場整備・駐車場案内（7件）
- 福知山城等の地域資源を活かしたお土産販売店や観光ルート・まちのカラーの統一（7件）
- 京阪神地域への交通アクセス強化（4件）